

視覚障がいについて

あなたに知ってほしいこと

視覚障がいとは

何らかの原因により視機能に障がいがあることにより、全く見えない場合と見えづらい場合（ロービジョン）とがあります。

●ロービジョンには

- 眼鏡をかけていてもよく見えない
- 光がまぶしい
- 暗いところで見えにくい
- 見える範囲がせまい
- 特定の色がわかりにくい
- などの症状があります。

視覚障がいには様々なケースがあり、困難さは人それぞれです。見かけだけでは不自由さや何に困っているかわかりづらいことも多くあります。

こんなことに困っています

●一人で移動することが困難です。

慣れていない場所では、一人で移動することが困難です。

●耳からの情報をたよりにしています。

目から情報を得にくいため、音声や触れることなどにより情報を得ています。また、視覚障がいのある人すべてが点字を読めるとは限りません。

●自分がどこにいるのか、そばに誰がいるのか、説明がないとわかりません。

●人の視線や表情が理解できず、コミュニケーションに苦労します。

●文字の読み書きが困難です。また、タッチパネル式の機械はうまく操作できません。

●点字ブロックの上に、物や自転車などが置かれていると困ります。

●買い物をするときに商品や価格がわからなくて困ります。

●「見えないからできない」のではなく、「教えてもらえばできる」ことが多くあります。

こんな配慮をお願いします

● 困っているように見えたら、突然体に触れず、前方から声をかけましょう

白杖使用者を見かけたとき、困っているように見えたら声をかけましょう。視覚障がいのある人は、まわりの状況がわからないため、会話が始められないことがあります。また、知っている相手でも声だけではわからないことがあります。

声をかけるときは、突然体に触れず、できるだけ前方から話しかけ、自分の名前や「あいサポーターの〇〇です」など簡単な自己紹介をし、「何かお手伝いすることはありませんか」と申し出てください。

● 指示語を使わないでください

「こちら、あちら、これ、それ」などの指示語や、「赤い看板」など視覚情報を表す言葉では、「どこ」が「何」かわかりません。

「30センチ右」「時計で3時の方向」など、具体的に説明しましょう。

場合によっては、手で触れながら説明しましょう。

● 伝達方法を工夫しましょう

点字や音声による情報を増やしましょう。

また、文字を拡大したり、黒地に白い文字などコントラストをはっきりさせると見えやすい人もいます。

赤と緑など、色の組み合わせによって、見えにくい人もいます。表やグラフなどを作る時には、色遣いに注意し、柄をつけたり、凡例をグラフ内に表示するなどの工夫をしましょう。

● その人の「目」になる気持ちが大切です

まず、どのような手助けが必要か尋ねましょう。

例えば、慣れていない場所では、腕を持ってもらって誘導することができます。誘導するときは、障がいのある人のペースにあわせて歩きましょう。

● 視覚障がいのある人への様々なサポート設備のある公共施設などがあります

点字掲示板やハンドセット付ATMなど、視覚障がいのある人が使いやすい設備が整えられている施設もあります。どこに何があるのか、覚えておくといでしょう。

視覚障がいのある人の見えない見えにくいところを補う情報があれば、行きたいところに行き、やりたいことができるようになります。そのためにサポートすること、出来ることが当たり前になるように、まずはためらわず、声をかけていくことが大事です。

詳しくは

ライトハウスライブラリー

〒690-0884 松江市南田町141-10

島根県西部視聴覚障害者情報センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1

電話：0852-24-8169

FAX：0852-28-4321

電話：0855-24-9334

FAX：0855-24-9335